

令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和6年3月31日時点】

| | | | | | | | | | |
|---|---|---------------------|---|-----------------|---|--|------------------|----------------|---|
| 団体名 | | 公益財団法人吹田市国際交流協会 | | | | 所管部室（課）名 | | 都市魅力部文化スポーツ推進室 | |
| 所在地 | | 〒565-0862 | | 吹田市津雲台1丁目2番1号 | | | | | |
| 設立年月日 | | 平成3年3月12日 | | | 代表者職・氏名 | | 理事長 近藤 佐知彦 | | |
| 基本財産 | | 200,000,000円 | | ①本市出資金（本市の出資割合） | | 円（ %） | | | |
| | | | | ②本市出捐金（本市の出捐割合） | | 200,000,000円（ 100 %） | | | |
| 設立目的 | 吹田市と連携をはかりながら市民主体の国際交流活動を進めるとともに、地域に根ざした国際相互理解や国際化に資する事業を推進することにより、異なる文化や価値観を有する人が安心して暮らせる人権尊重を基調とした地域社会づくりに寄与することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 事業内容 | (1) 国際理解及び国際化に関する啓発及び研修 (2) 市内に居住又は滞在する外国人に対する支援 (3) 市民による国際交流活動及び国際協力活動に対する支援 (4) 国際化の担い手の育成に関する事業 (5) 国際交流に関する情報や資料の収集及び提供 (6) その他法人の目的を達成するために必要な事業 | | | | (具体的な事業内容) | | | | |
| | | | | | 外国人ワンストップ相談センター運営/多言語情報発信/行政・国際交流情報の収集及び発信/国際交流ボランティア活動支援/国際交流団体等支援連携/語学教室/多文化共生講座/国際理解授業/防災減災事業/日本語教室/子育て中の外国人支援/外国人のキャリアアップにつながる支援/外国にルーツをもつ子どもの居場所づくり・学習支援/コミュニティ通訳ボランティア行政窓口・病院同行事業/コミュニティ通訳ボランティア養成・スキルアップ講座 | | | | |
| | | 合計（市職員及び元市職員以外も含む。） | | | | 合計（元市職員以外も含む。） | | | |
| | | | | うち市職員 | うち元市職員 | | | うち元市職員 | |
| 役員数 (人) | 理事 (取締役) | 常勤 | 0 | 0 | 0 | 職員数 (人) | 常勤 | 3 | 0 |
| | | 非常勤 | 8 | 1 | 0 | | 再任用(※1) 常時勤務 | 0 | 0 |
| | 監事 (監査役) | 常勤 | 0 | 0 | 0 | | 再任用(※1) 短時間勤務 | 0 | 0 |
| | | 非常勤 | 1 | 0 | 0 | | 非常勤 | 0 | 0 |
| 65歳以上の役員数(※2) (人) | | 1 | / | 0 | 0 | 臨時 雇用員 | 10 | / | 0 |
| 評議員 (人) | | 10 | 0 | 0 | 0 | 65歳以上の職員数 (※2) | | 1 | 0 |
| 元市職員に対する報酬や給与水準が、市再任用職員の水準を上回る。(いずれかに○) | | | | | | 該当 ・ 非該当 | | | |
| 【該当する場合のみ記載】内容 | | | | | | | | | |
| 元市職員に対して退職金を支給している。(いずれかに○) | | | | | | 該当 ・ 非該当 | | | |
| 【該当する場合のみ記載】内容 | | | | | | | | | |

※1 再任用職員とは、61歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和5年度決算】

| 団体名 | | 公益財団法人吹田市国際交流協会 | | 所管部室(課)名 | | |
|--------------|------------|-----------------|-------------|--|------------|-------------|
| | | | | 都市魅力部文化スポーツ推進室 | | |
| 財務状況(円) | 損益計算書 | 総収入 | 56,341,567 | 貸借対照表 | 資産の部合計 | 227,232,121 |
| | | (うち市受入金) | 33,520,500 | | 負債の部合計 | 21,625,236 |
| | | (その他) | 22,821,067 | | (うち有利子負債) | 0 |
| | | 総費用 | 50,916,598 | | 正味財産合計 | 205,606,885 |
| | | 経常損益 | 5,424,969 | | (うち一般正味財産) | 5,606,885 |
| | | 当期損益 | 5,424,969 | | | |
| | | | | | | |
| 市から団体への支出(円) | 主要内容、算出根拠等 | | | | | |
| | フロー | 補助金 | 1,300,000 | 吹田市国際交流協会事業補助金 | | |
| | | 委託料 | 32,220,500 | 日本語教室及び日本語学習支援業務/外国人等支援及び国際交流促進業務/行政通訳同行業務 | | |
| | | 指定管理料 | 0 | | | |
| | | その他 | 0 | | | |
| | | 計 | 33,520,500 | | | |
| | ストック | 貸付金残高 | 0 | | | |
| | | 債務保証残高 | 0 | | | |
| | | 損失補償残高 | 0 | | | |
| | | 出資金(出損金) | 200,000,000 | 吹田市出捐金 | | |
| | | その他 | 0 | | | |
| | | 計 | 200,000,000 | | | |

令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間：令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

| | | |
|-----|-----------------|----------------------------|
| 団体名 | 公益財団法人吹田市国際交流協会 | 所管部室(課)名 都市魅力部文化スポーツ推進室 |
|-----|-----------------|----------------------------|

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

| 指針の項目 | 評価項目 | 評価 | 評価の理由 |
|--------------|-------------------------------------|----|--|
| 組織及び 人事管理 | 規程等を適切に整備している。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・規程等の整備や労務管理は、随時社労士と相談し、適切に対応している。また、令和5年4月に同一労働同一賃金に沿った就業規則を制定、令和6年6月には賃金退職金規程を制定した。 ・事業規模に応じた適正な執行体制、職員数を企図し、常勤・非常勤職員を公募した。 ・原則公募採用とし、採用は職員と理事長・副理事長と複数によって決定し、公正性と透明性を確保している。 ・理事、評議員、監事は、全員報酬及び退職金の支給はない。 ・他機関の関連事業や研修への参加を促し、組織内の職員研修も実施した。 |
| | 団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。 | ○ | |
| | 団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。 | ○ | |
| | 採用における公正性・透明性を確保している。 | ◎ | |
| | 団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。 | ◎ | |
| | 職員研修の充実に努めている。 | ◎ | |
| 事業運営 | 事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・事業の振り返りをしっかり行い、効果的・効率的な運営に努めた。 ・事業参加者にアンケートを実施し、事業の内容や方向性について客観的に捉えられるよう務めた。 |
| | 事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。 | ◎ | |
| 財務管理 | 中・長期的な経営計画を策定している。 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に中期アクションプランを策定している。次期プランを策定するため、協会経営改善・あり方検討チーム設置要綱を制定する等準備を開始した。 ・コロナ禍で著しく減少した自主事業収益の増収に引き続き励んだ。 ・謝金の見直しをし、可能な限りの経費削減に努めた。 ・顧問の公認会計士と相談し、適正な財務管理を行った。 ・会計事務所に依頼して、専門家による前年度の会計監査を実施した。 |
| | 自主財源の確保に努めている。 | ◎ | |
| | 各種経費を可能な限り抑制している。 | ◎ | |
| | 最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。 | ◎ | |
| | 外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。 | ◎ | |
| 情報公開 | 団体の経営状況、事業計画を公開している。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・経営状況、事業計画、事業報告、役員名簿、議案概要は、ホームページで公開している。 ・ホームページ、フェイスブック、インスタグラムを利用して情報発信を行った。 ・所管の指示と弁護士の助言に従い、個人情報保護に関して、適正に対応している。 |
| | 団体の役員名簿、会議録等を公開している。 | ◎ | |
| | ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。 | ◎ | |
| | 個人情報保護に関する措置を適正に講じている。 | ◎ | |

令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間:令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

| | | |
|-----|-----------------|----------------|
| 団体名 | 公益財団法人吹田市国際交流協会 | 所管部室(課)名 |
| | | 都市魅力部文化スポーツ推進室 |

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

| 事業名 | 活動指標 | 令和5年度目標 | 令和5年度実績 | (参考) 令和4年度実績 |
|----------------|--------------------------|-------------------|---------|-----------------|
| | 成果指標 | | | |
| 市民主体の国際交流・国際協力 | SIFA Times発行部数 | 7,000部(年4回) | 6,900部 | 7,000部 |
| | ボランティアによる日本語学習支援参加者数 | 3,628人 (昨年度並み) | 4,195人 | 3,628人 |
| 国際化推進の人づくり事業 | 異文化理解・啓発事業数 | 25回 (昨年度並み) | 26回 | 25回 |
| | 日本語教室受講者数 | 1,740人 (昨年度並み) | 2,160人 | 1,740人 |
| 在住外国人の支援 | 吹田市多文化共生ワンストップ相談センター相談件数 | 168件 (昨年度並み) | 553件 | 168件 |
| | コミュニティ通訳ボランティア同行事業同行件数 | 201件 (昨年度並み) | 154件 | 201件 |

イ 指標で示すのが困難な場合

| 事業名 | 活動内容 | 成果内容 |
|-----------------------------|--|---|
| ①語学教室 ②多文化まつり ③防災減災事業 | ①多様な言語・文化を学習する場を地域住民に提供している。 ②様々なイベントを通して、地域住民間の交流を促し、相互理解につなげている。 ③多言語情報発信に加え、市と連携した研修を実施している。また、「外国人対応用初動キット」を各避難所に配布している。 | ①過去の学習者の家族が新たに学習者となる等、満足度が高いことが想定できる。 ②各種イベントへの学習者、ボランティア以外の来訪者が増え、利用者からの「ありがとう」の言葉やメールが増加傾向にある。 ③各避難所に配布したことを他国際交流協会から評価されている。 |

(3) 今後の取組方針

※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業規模に応じた適正な業務執行のために、事務局長のもとに事業グループリーダー2名、法人管理グループリーダー1名を配置し、安定した事業運営に取り組む。 ・新たに賃金退職金規程を制定することで、常勤職員を増員し、安定した組織運営に努める。 ・常勤及び非常勤職員の安定した継続雇用に向け、組織基盤の強化及び収益増加に取り組む。 ・協会を取り巻く状況について可視化し、事業戦略の立案を進め、次の中長期的なアクションプランの策定準備を進める。策定は、令和6～7年の予定である。 |
|---|

令和6年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間:令和5年4月1日から令和6年3月31日まで】

| | | |
|-----|-----------------|----------------|
| 団体名 | 公益財団法人吹田市国際交流協会 | 所管部室(課)名 |
| | | 都市魅力部文化スポーツ推進室 |

◎→できている ○→概ねできている
 △→一部できている ×→できていない

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

| 事項 | 評価項目 | 評価 | 評価の理由 |
|---------------|---------------------------------|----|--|
| 団体の存在意義 | 市民福祉の向上に資する事業を行っている。 | ◎ | 協会の広い人脈や豊富な情報を活用しながら、市の委託事業や補助事業、自主事業を展開しており、吹田市多文化共生推進指針に基づく施策の推進に寄与しているため。 |
| | 事業の成果が市の施策の推進に貢献している。 | ◎ | |
| 事業実施主体としての妥当性 | 市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。 | ◎ | 吹田市多文化共生ワンストップ相談センターの運営、日本語教室の実施など、効果的かつ効率的に、外国人等への支援に寄与するサービスを提供しているため。 |
| | 多くの市民の理解が得られる活動を行っている。 | ◎ | |

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

令和5年4月に就業規則を制定、令和6年6月に賃金退職金規程を制定したこと等により、規程の整備や労務管理は適正に整備されている。組織運営や人事管理についても、採用は公募により行うなど、公平性・透明性が確保されている。

財務管理について、令和2年度に中期アクションプランを策定しているが、次期プランの策定の準備を進める中で、更なる経費抑制や財源確保の方策について検討されたい。

また、ホームページでの経営状況・事業計画・役員名簿・議案概要等の公開や、通訳同行事業等における倫理規定の整備など、情報公開や個人情報の保護については、適正な措置が講じられている。

事業については、外国人等の増加や多国籍化等による支援ニーズの多様化に対応するため、令和4年10月から行政サービス情報等の提供及び相談を多言語で行う「吹田市多文化共生ワンストップ相談センター」を開設し、市内在住外国人等への支援の充実を図り、効果的・効率的な運営ができている。また、令和3年度に引き続き実施したボランティアによる日本語学習支援のオンライン学習については、参加者の多様なニーズに対応したことによるものであり、高く評価している。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

外国人等の増加や多国籍化等による支援ニーズの多様化に対応するため、令和5年度に策定した「吹田市多文化共生推進アクションプラン」に基づき、これまで協会が蓄積させたノウハウを活用し、市と協会で連携のうえ事業を実施していく必要がある。また、外国人等を取り巻く現状やニーズ等の変化を踏まえた事業内容を検討するなど、柔軟に対応していく必要がある。

今後も、市内在住外国人等の全ての人が安心して住むことができるまちづくり、多文化共生社会を推進する。